

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
スポーツ社会学 Sport Sociology		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(日本体育協会公認スポーツ指導者 資格取得者は必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
健康・運動・スポーツに関連する科目。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
運動・スポーツに関する指導者資格取得に必要な科目。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
鈴木 由美	非常勤講師室	金曜 12:10～12:50		授業中に指示します
授業の概要				
スポーツは、現代の社会において国民の健康や文化などに重要な役割を担っている。それらがどのように人々や社会とかわっているのかについて理解し、特徴や問題点を分析する。				
授業の目標				
①スポーツの持つ価値について説明ができるようにする。 ②現代スポーツの問題点を分析し、その説明ができるようにする。 ③今後のスポーツのあり方について解説できるようにする。				
授業の方法				
講義形式				
学習の成果（学習成果）				
①日本の体育・スポーツ・フィットネスの歴史について説明することができる。 ②現代社会におけるスポーツの役割、価値について説明することができる。 ③現在のスポーツが持つ問題点について説明することができる。 ④これからのスポーツのあり方について社会的に考え解説することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業ガイダンス（授業の進め方、受講上の注意、評価について） スポーツ社会学とは何か？			
第2回目	スポーツの歴史			
第3回目	現代社会とスポーツ			
第4回目	生活習慣病とスポーツ			
第5回目	子ども、障害者とスポーツ			
第6回目	スポーツの価値を考える			

第7回目	スポーツをささえる・・・審判の役割	
第8回目	スポーツの施設	
第9回目	消費社会とフィットネスの誕生	
第10回目	ジェンダーとスポーツ① 性役割	
第11回目	ジェンダーとスポーツ② 女性とスポーツ	
第12回目	スポーツと教育	
第13回目	スポーツと薬物（ドーピング、依存症）	
第14回目	1～13回目までの授業内容のディスカッション及びまとめ	
第15回目	スポーツを深く知るために・・・スポーツに関する博物館・美術館・名所	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	すべての授業に出席することが前提。遅刻・早退は1回で欠席1／3回に相当する。授業と関係のない行為（私語、スマホ・携帯の使用、居眠りなど）には退出を求める。
レポート	30%	授業内でDVDを視聴しレポートの提出を求める。詳細については授業内に指示する。A=よくできている、B=まあまあできている、C=あまりできていない、D=できていない、で評価を行う。
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	100点満点中 S=90-100点、A=80-89点、B=70-79点、C=60-69点、D=59点以下、で評価。
発表内容（態度含む）		
その他		15回すべての授業に出席することが前提であり、正当な理由なく3回以上欠席の場合は評価をEとする。
教科書と参考図書		
教科書：スポーツ白書2014～スポーツの使命と可能性～（笹川スポーツ財団） 参考書・参考資料：子どものスポーツライフ・データ2013（笹川スポーツ財団）、青少年のスポーツライフ・データ2013（笹川スポーツ財団）他 授業担当者より適宜プリント資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の方法と基準を熟知のこと。 ・教科書（購入必須）・ノートを持参のこと。 ・パワーポイント、DVD教材を利用するので前方の席より着席すること。 		